



2019年10月30日

『狩猟された有害獣をジビエに活用する情報共有システム』のフィールド実証開始について  
～ICTで狩猟者と獣処理施設のスピーディーな連携を実現～

株式会社エネルギア・コミュニケーションズ（略称：エネコム、本社：広島市、取締役社長：渡部 伸夫）は、有限会社みわ375（本社：三次市、代表者：片岡 誠）と連携し、11月1日（金）から広島県三次市三和町における狩猟者と獣処理施設との情報連携にICT<sup>※1</sup>を活用し、有害獣を狩猟後の新鮮なうちにジビエとして活用するフィールド実証を開始いたします。

昨今、各地でジビエ<sup>※2</sup>がブームになっていますが、狩猟された有害獣の獣肉（シカ、イノシシ等）は、直ぐに処理をしないと劣化が進むため、現状ではほとんどが廃棄処分されています。ジビエとして活用するためには獣処理施設へ短時間のうちに搬送する必要があるため、狩猟者と獣処理施設との間でスピーディーな情報連携が課題となっています。

エネコムはこれまで取り組んできたICTの知見や経験を活かし、有害獣の狩猟連絡から引取り・運搬・獣処理加工までの迅速化にむけ、簡単な定型文を選択することで捕獲位置を含めて狩猟した内容がスピーディーに連携できる情報共有システムを自動会話プログラム（チャットボット<sup>※3</sup>）の機能を用いて構築しました。

今回、広島県三次市を中心に、このシステムの有効性を確認する実証実験を開始します。

将来的にはICT活用により、狩猟・捕獲された有害獣のジビエへの利活用が促進されることで、狩猟が活発化して有害獣駆除も進み、農業での害獣被害減少およびジビエ消費による関係者収益の増加も期待できます。

エネコムでは、今後も獣被害防止対策とジビエ利活用の推進や、狩猟者と獣処理施設間の情報連携によるジビエのトレーサビリティ確保等、地域が抱える課題解決にICT活用を推進し、地域社会の発展にチャレンジしてまいります。

◆実証概要

- ・期間：2019年11月～2020年3月末（予定）
- ・場所：広島県北部（三次市）
- ・内容：山間地において有害獣狩猟者と獣処理施設をICTシステムで連携する実証実験
- ・各社の役割

○有限会社みわ375

獣処理施設の運営者として実証に参加し、狩猟者との情報連携でチャットボットを活用、評価する。

○エネコム

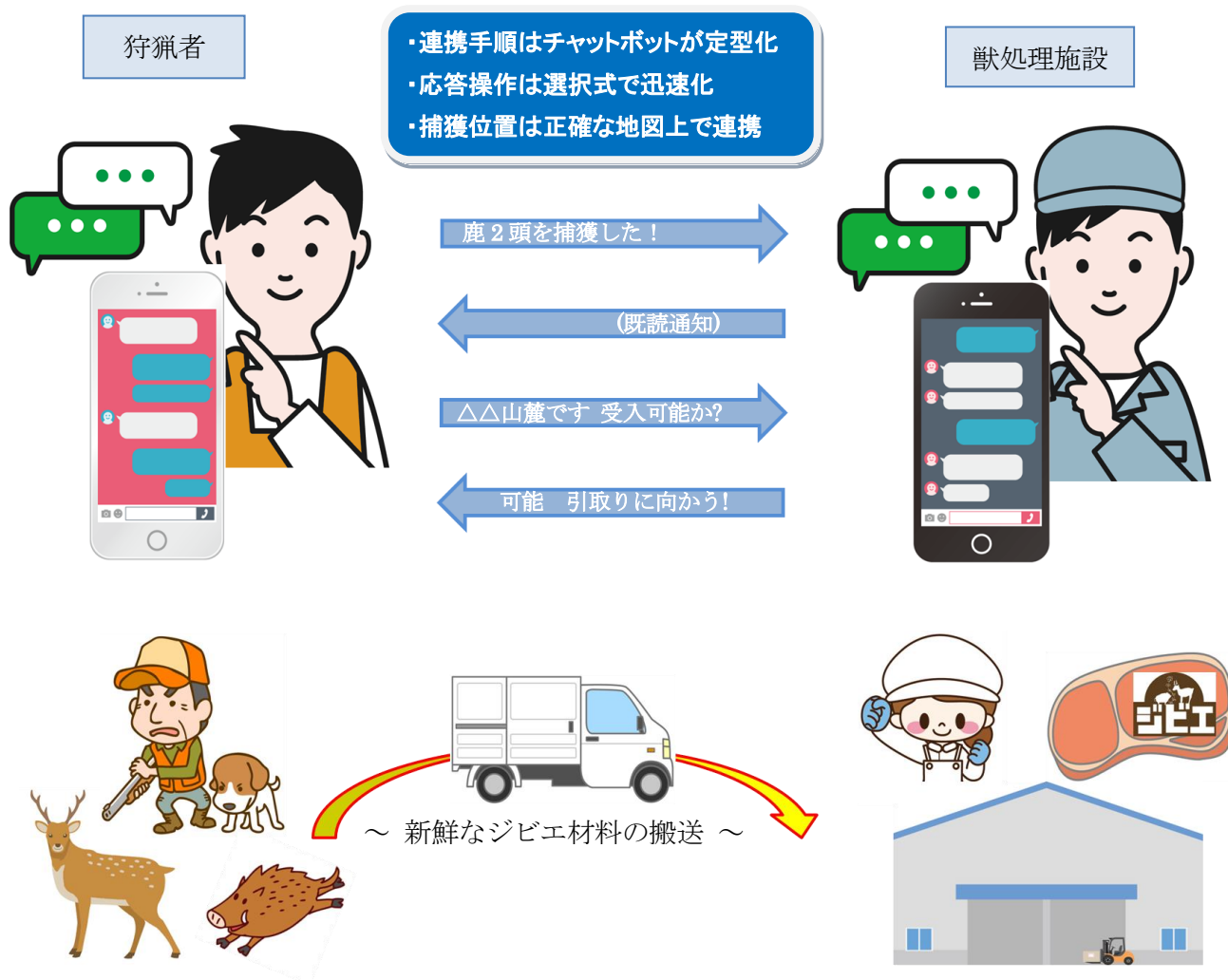
ICT企業として、実証に必要なアプリケーションなどICT環境の構築・提供を行う。

※1：ICT（Information and Communication Technology）：通信技術を活用したコミュニケーションによる産業やサービスなどの総称。

※2：ジビエ（GIBIER）：フランス語で狩猟により得た野生獣等の食肉を意味します。

※3：チャットボット（Chat-bot）：会話（chat）とロボットの略語（bot）を組み合わせた言葉で、決められた規則に従い自動でコミュニケーションするプログラムを意味します。今回は株式会社LisBのビジネスチャット「direct」を活用した仕組みにより、フィールド実証を行います。

【フィールド実証イメージ】



【有限会社みわ375】

所在地：広島県三次市三和町上壱2098-1

代表者：片岡誠

業務内容：三次ジビエ工房『みわ375』にて、主にシカおよびイノシシをジビエ加工するとともに、『物産館みわ375』にて料理提供と直販およびジビエレストランへ出荷している。



獣肉を処理加工する三次ジビエ工房『みわ375』



ジビエ料理を提供する『物産館みわ375』

本件に関するお問い合わせ先

株式会社エネルギー・コミュニケーションズ

ソリューション事業統括本部 事業創造部 (大本, 武田) TEL 050-8201-1402